令和六年度　公立学校教員採用候補者選考試験問題

国　語

1／15枚中

注意　答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。句読点は字数に含む。

第一問題　各問に答えよ。

問1　次の漢字に関する問に答えよ。

(1)　次のア、イの傍線部の漢字の読みをひらがなで答えよ。

ア　漸く手に入れることができた。

イ　彼は文化人類学に造詣が深い。

(2)　次のア、イの傍線部で示したカタカナを漢字で記せ。

ア　久しぶりに会った友人とホウヨウを交わす。

イ　フランス文学にケイトウしている。

(3)　次の漢字の部首名を答えよ。

夢

問2　次の語句に関する問に答えよ。

(1)　四字熟語とその意味の組み合わせとして適当でないものをA～Eから選び、記号で答えよ。

A　決刀乱麻…難事を手際よく処理すること。

B　深謀遠慮…先々のことを考えて周到に計画を練ること。

C　杓子定規…物事の基本に沿って規律を正すこと。

D　南船北馬…各地にせわしく旅すること。

E　当意即妙…その場に合わせてすばやく機転をきかすこと。

(2)　次に示した意味を表す慣用句として最も適当なものを後のA～Eから選び、記号で答えよ。

今までの親しい関係を絶って、冷淡なあつかいをする。

A　肩を入れる　B　泥を吐く　C　水泡に帰す　D　野に下る　E　袖にする

2025 kyosai-guild.jp

第二問題　次の[I]～[III]の文章を読み、後の問に答えよ。（出題の都合上、一部本文に修正を加えている。）

[I]

消費は現在、①他者と競い合うコミュニケーションのゲームとしてだけではなく、②私的な快楽や幸福を終わりなく追求する実践として、無数の人びとにくりかえされている。

そのおかげでこれまで商品化の原理がなかなか及ばなかった分野にまで、消費のゲームが拡大している。教育や介護など商品となりにくかった対象が、その文脈から切り離され（＝難床化され disembedded）、販売されているのである。それに加え、空間的にみれば、消費社会化が西洋諸国だけではなく、アジア・アフリカなどに着実に及んでいることが見逃せない。自動車や携帯電話、または海賊版的な違法・脱法的商品の流通を促しながら、購買活動はたんに生活を潤すだけではなく、人が人として生きる自由と尊厳を支える欠かせない機会になっているのである。

だからこそ消費社会は端的には否定できない。とはいえ消費社会としてあるこの社会に[a]問題がないわけではない。消費は生活に欠かせない役割をますますはたしている一方で、いくつかの難問をはらみ、場合によっては、それが消費社会の存続さえ危うくしている。社会が将来いかになるべきかという理想を考える上では、そうした問題をみてみぬ振りはできないのである。

消費社会の最初の、そしてきわめて大きな限界になるのが、消費にかかわる自由の配分である。消費は人びとがモノを選択し手に入れる自由を保証するが、そのためには当然、貨幣による支払いが必要になる。しかし貨幣は均等に配分されているわけではない。[*1]ピケティが指摘していたように、資本主義には富める者をますます富ませ、貧しい者をますます貧しくする傾向がある。一パーセントの豊かな者の収入が総所得に占める割合は、たしかに二〇世紀中盤に減少したものの、米国や英国などのアングロサクソン国家では一九八〇年代に再び上昇し、一九三〇年代の水準にまで回帰している。日本ではそこまでではないものの、一九九〇年代には同じく格差拡大の傾向がみられ、豊かな者の所得が総所得に占める割合は、少なくとも一九五〇年代の規模に舞い戻っているのである（[b]図1）。

[ア]、格差の拡大はすぐに消費の自由を台無しにしてしまうわけではない。デフレの到来が一〇〇円ショップでの「賢い」消費を活性化していったように、格差の拡大は商品の価格低下や多様化を促すことで、消費のゲームをにぎやかにもしてきた。

ただし格差が消費のゲームに参加さえできない者を増やすのであれば、やはり問題になる。何であれモノを買うことは、消費社会では、その人の尊厳を支える他に代えがたい契機になる。自分で好きに選択することは、その人の独自性や固有のライフスタイルを具体的に守る砦（とりで）になるからである。

資本主義のなかで自由な選択を許されていなかったり、またそもそも消費のゲームに参加さえできない人がいることは、それゆえ「公平（equity）」とはいえない。消費がますます重要な役割を担う社会で、自分の欲望や望みに対して配慮を受けず、そのため自分の居場所が充分に与えられないことをそれは意味しているためである。

こうした不公平の増大に対して、是正が試みられてこなかったわけではない。それを担ったのが国家である。マルクス主義的にいえば、資本主義は過剰生産による購買力の不足という問題を潜在的にかかえている。二〇世紀社会は労働者の賃金を増やすことでそれに対応してきたとされるが、ただしそれは自発的に、また充分になされてきたわけではない。労働力が切迫した限定的な状況を除けば、個々の企業には賃金を上げる動機はとぼしかったからである。

だからこそ国家はそれを補い、労働者の賃金を直接、または間接的に維持することに努めてきた。たとえばデイヴィッド・ガーランドによれば、一九世紀末から二〇世紀なかばにかけて労災保険や疾病、出産保険など所得保障を試みる制度が各国で整備されていく。資本主義が拡大していくなかで、国家の手によって労働者の生活を保障することがまがりなりにもグローバルに一般化していくのである。

こうした流れは、二〇世紀なかば以降には、個々の企業の代わりに国が労働者の暮らしを担うことを目指す「福祉国家」へと結実した。ナショナリズムの高まりや、それを前提とした総力戦体制の確立にも後押しされ、程度の差はあれ、国民の生活を積極的に保護していくことを多くの国家が目標とし始める。他方、財政的にみればこの動きは、公共投資などへの支出を拡大することで完全雇用を目指すケインズ的財政政策の一般化と並行していた。国民生活を直接維持しようとするの

2025 kyosai-guild.jp

か、または完全雇用によって間接的に大多数の国民の生活を安定させることを目指すのかというちがいはあれ、積極的に税金を投下して国民の生活を維持することを多くの国家が目標とし始めていくのである。

こうした国家の舵取りは二〇世紀の最後の四半世紀にたしかに広汎な挑戦を受けることになった。税収を増やし、その代わりに福祉に力を入れる「大きな政府」への志向は新自由主義的な思潮のもと否定され、代わりに民間セクターとの協力関係を前提に統治を実現する「小さな政府」が企図されていくのである。

ただしそれによって福祉国家的試みが完全に放棄されたわけではない。新自由主義も国家を端的に敵視したわけではなく、むしろ利率や為替レートの操作、さらには一部の業界の規制緩和策などの手段を使って、自国のグローバルな経済的優位を確立しようと努めてきた。そうした枠組みのなかで経済を安定化させる最低限の装置として、社会保障制度はしばしば縮小が議論されながらも、なお維持されてきたのである。

実際、日本でも国家の介入によって所得格差はかなりの程度、改善されている。確認したように、平成の時代、不平等を表現するジニ係数[※2]は上昇し、所得の配分は世帯によってさらなる偏りを生んだ。ただしそれは税収や年金給付等の調整以前の話であり、再分配がおこなわれた後の数字をみれば、ジニ係数はかなり安定している（図2）。格差が拡大したことには、そもそも高齢化の影響が大きかったが、高齢者に対する年金を中心に多くの税金が投入されることで、全体としての平等はかなりの程度、維持されてきたのである。

（貞包英之『消費社会を問いなおす』より）

ジニ係数、相対的貧困率（所得再分配調査より作成）

図2

＊1　ピケティ……フランスの経済学者。

＊2　ジニ係数……所得などの分布の均等度合を示す指標。0に近づくほど格差が小さく、不平等が大きいほど1に近くなる。

2025 kyosai-guild.jp

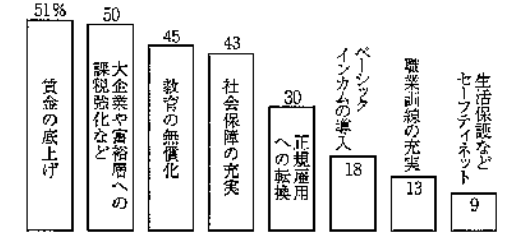
Ⅱ　新聞記事

日本の経済格差「深刻」88％、縮小のため「賃金底上げを」51％…読売世論調査

読売新聞社は格差に関する全国世論調査（郵送方式）を実施し、日本の経済格差について、全体として「深刻だ」と答えた人は、「ある程度」を含めて88％に上った。「深刻ではない」は11％だった。具体的な格差7項目について、それぞれ今の日本で深刻だと思うかを聞くと、「深刻だ」との割合が最も多かったのは「職業や職種による格差」と「正規雇用と非正規雇用の格差」の各84％だった。岸田首相は「新しい資本主義」を掲げ、これまで市場に依存し過ぎたことで格差や貧困が拡大したと繰り返してきた。調査からも、格差への問題意識が広く共有されていることが明らかになった。自分自身が不満を感じたことがある格差（複数回答）としては、「正規雇用と非正規雇用の格差」の47％が最も多く、「職業や職種による格差」42％、「都市と地方の格差」33％などが続いた。格差縮小のため、政府が優先的に取り組むべき対策（3つまで）は、「賃金の底上げを促す」51％、「大企業や富裕層への課税強化など税制の見直し」50％、「教育の無償化」45％などの順で多かった。日本の経済格差が今後どうなると思うかを聞くと、「拡大する」が50％で、半数が悲観的だった。「変わらない」は42％で、「縮小する」は7％にとどまった。

（読売新聞二〇二二年三月二十七日より）

格差縮小のために優先すべき対策（3つまで）



年代別（上位3項目）	1位	2位	3位
18～39歳	賃金の底上げ	教育の無償化	社会保障の充実
40～59歳	教育の無償化	賃金の底上げ	大企業や富裕層への課税強化など
60歳以上	大企業や富裕層への課税強化など	賃金の底上げ	社会保障の充実

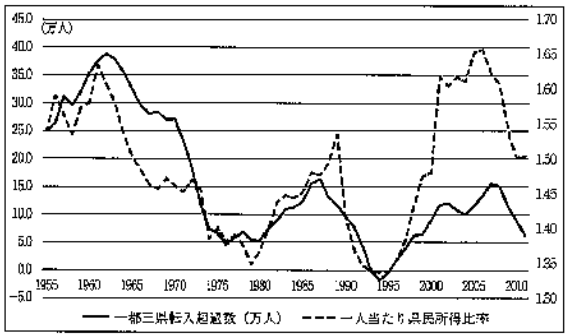
（Ⅱの資料）

Ⅲ　内閣府の資料

日本では戦後、三大都市圏を中心とした都市圏と、農漁村を含む地方圏との間での所得格差が続いてきた。そして、こういった所得格差と人口移動の間には密接な関係があり、より所得の高い魅力的な地域に、地方から若年層を中心に人口が流出してきたと考えることができる。一方で、都市圏と地方圏の格差を考える際に、単純に所得格差のみを比較してよいのかという問題もある。地域によって生活に必要な費用は異なり、また物価の違い、住宅環境の違いなどがある。単に所得の金額だけを比較してどちらが豊かかを論じることは必ずしも適切ではないであろう。なお前述したとおり、近年、経済の水準というよりも経済状況の好不況が、若年層の人口移動や出生率に影響を及ぼす傾向が出てきているとみられる。

（内閣府ホームページ「選択する未来」より）

東京圏における転入超過数と所得格差の推移



（備考）総務省「住民基本台帳人口移動報告」、内閣府「県民経済計算」
転入超過数は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の1都3県の転入超過数計。
所得格差は県民経済計算の「一人当たり県民所得」の全国計に対する東京都の比率。

（Ⅲの資料）

2025 kyosai-guild.jp

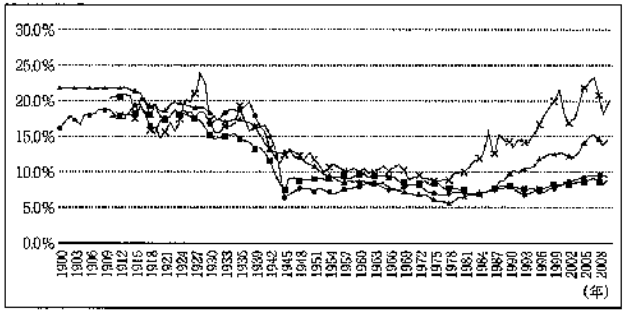
問1　次の問に答えよ。

(1)　傍線部a「問題」について説明した次の文の［　　］に入る言葉を文章中から十二字で抜き出して答えよ。

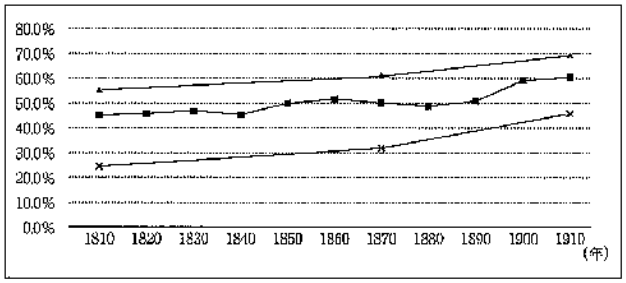
［　　］についての問題。

(2)　傍線部b「図1」として最も適当なものをA～Eから選び、記号で答えよ。

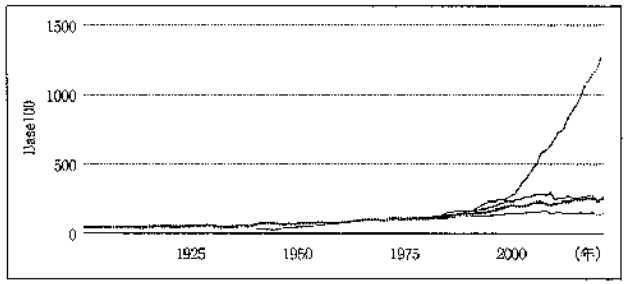
A



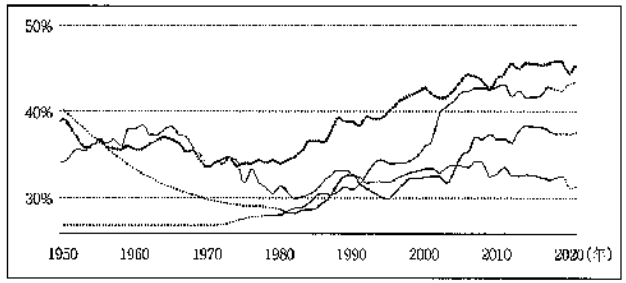
B



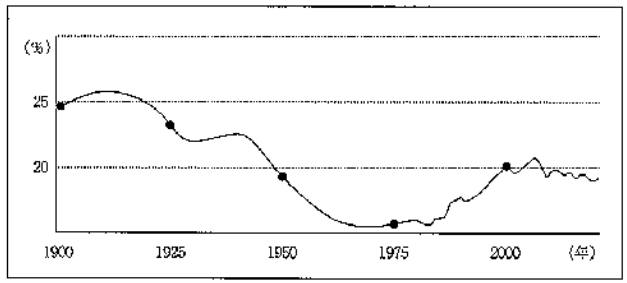
C



D



E



2025 kyosai-guild.jp

(3) ア に入る接続語として最も適当なものをA～Eから選び、記号で答えよ。

A なぜなら　B つまり　C 例えば　D さて　E たしかに

(4) 文章Ⅰ、Ⅱにおける、筆者の述べ方の工夫として、最も適当なものをA～Dから選び、記号で答えよ。

A Ⅰでは大きな政府が小さい政府に置き換わって現代で広まるまでの歴史を述べることで、大きな政府がなぜ今重要なのか読者に伝わるようにしている。

B Ⅰでは消費が人間に不可欠なものであることを述べた上で消費の問題点について述べることで、問題がより深刻であることを読者に伝わるようにしている。

C Ⅱでは先に客観的な数値を全て示してから調査についての分析を最後に述べることで、調査の内容がより論理的に読者に伝わるようにしている。

D Ⅱではグラフの下に年代別の表を載せることで、優先すべき対策の上位3項目が年代によって全く同じであることが読者に伝わるようにしている。

問2 次の【資料】を読み、後の問に答えよ。

【資料】

Ⅰ～Ⅲを読んだ生徒の会話

なおと　Ⅰの文章では、[c]日本では全体として平等はかなり維持されてきたと書かれているね。

けんた　ぼくはタブレットでⅡの記事を見つけたよ。[d]日本全体の平均だけ見るのではなく、どのような格差が残っているのか見ていく必要があると思うよ。

ゆうき　タブレットを使って調べてみたら、Ⅲの資料が載っていたよ。[e]単純に所得格差だけで考えるのは問題かもしれないね。

(1) 傍線部c「日本では全体として平等はかなり維持されてきた」とあるが、それはなぜか。Ⅰの文章を踏まえて説明した次の文の［　　］に入る言葉を十字以上二十字以内で答えよ。

日本では、国家によって［　　］が行われたから。

(2) 傍線部d「日本全体の平均だけ見るのではなく、どのような格差が残っているのか見ていく必要がある」とあるが、そのように言えるのはなぜか。Ⅰ～Ⅲの文章を踏まえて八十字以上百字以内で説明せよ。

(3) 傍線部e「単純に所得格差だけで考えるのは問題かもしれないね」とあるが、どのような問題があるのか。Ⅲの文章を踏まえて説明した次の文の［　　］に入る言葉を二十字以上三十字以内で答えよ。

都会では所得が高くても［　　］ということ。

2025 kyosai-guild.jp

第三問題　次の文章を読み、後の問に答えよ。（出題の都合上、一部本文に修正を加えている。）

こういう愚劣な心境は、しかし或る程度、誰にでもある。とくに犬を飼うと、①われわれの内心の〝犬〟的な要素からも、それは起ってくる。

よく犬の散歩に、竹竿か棒切れのようなものを持ち歩く人がいるが、あれを最初、自分の犬の途中でした糞を片付けるためのものかと思い、うちのコンタがよくよその家の門柱の台石などに糞を山のように盛り上げ、それを私は一度も片付けたりせず、翌日は同じ道を慚愧の念で通りすぎることと考え合せて、大いに反省した。だが、だんだんたってみると、あの棒は何も大して②キトクな心掛をあらわすものではない、よその犬が喧嘩をしかけてきたとき、それを追い払うためのものに過ぎない、ということがわかってきた。

それ以来、あの棒で武装した人を見ると、何ともアサマシイものだと思いたくなるが、このアサマシさもまた犬を飼う以上、或る程度は避けられないものだ。マルチスだのシバ犬だの、小型の犬を散歩させながら、向うの曲り角から大きな犬が顔を突き出したときのギョッとする気持は、ただの恐怖心ではなく、自分自身が小さな犬になって、相手の大きな犬に畏怖と尊敬の念を起しているのであり、そのことを後になって憶い出すと、まるで自分が人間としての誇りも尊厳も台ナシにされたような、鬱屈した気分になる……。これが散歩でなく、自分の犬が家の庭で、よそからやって来た犬に噛みつかれたりするとなると、その腹立たしさは一層大きい。そのことは志賀直哉氏の③「一朝の試写会」という短篇を読むと、よくわかる。

これは志賀氏が戦後しばらく熱海に住んでいたじぶんの、日常的な断片スケッチで、題名の試写会は、スタンダールの小説を映画化した『パルムの僧院』の試写を見に、無理矢理ひっぱられるようにして連れ出され、おかげで風邪をひいたということから取ってある。そういうこともあって志賀氏は、この試写会の間、不機嫌であるが、映画自体もあまり感心出来ない出来映えだったらしい。ジェラール・フィリップの扮するファブリス・デル・ドンゴオがやたら無性に暴れまわるばかりで、すくなくともスタンダールの小説を読んでおられない志賀氏には、ファブリスはただ不可解な乱暴者としか考えられず、その暴力ぶりが、まるで志賀氏の家の隣からやってくる黒いワイヤー・ヘヤードの犬にそっくりに思われる――。（中略）そこで志賀氏は隣の家の黒いワイヤー犬に、密かに「ファブリス」というアダ名をつけて、家の人たちにそう呼ばせる。

憎むべきファブリスは、近隣一帯を荒しまわり、あたりの犬を全部配下におさめて向うところ敵なき有様である。志賀家で飼っているシバ犬なども、無法にも垣根を破って侵入してくるファブリスのために、完全にいためつけられて何をされても手を足も出ない。ファブリスがやって来ると、シバ犬はそれだけでオジ気づき、自分の餌を横取りされて眼の前で食われるのを、じっと我慢して最後まで尻尾を垂れて眺めている……。そういうファブリスが交尾期で、遠征に出掛けた或る日、四ンぼの傍の野天の肥溜に勢いあまって跳び落ちるという奇禍に遭い、無敵の勇将もあえない最期をとげるのであるが、私は志賀氏がそのファブリスが死んで行く場面を想像している描写力の凄絶さに、驚かされた。

牝犬のあとを追って、野原をわが物顔に駆けまわっていたファブリスは、眼の前に土色をした、乾いた表面にワラ屑などもちらばっている野天の肥溜があるのに、一見ほとんど普通の地面と変りないその向う側を、目当ての犬が逃げて行くのを見て、平気でまっしぐらに跳び掛る。いったん跳び上ったファブリスの体は、ちょうど肥溜の中心の、空中で真直ぐにのび切った前肢と後肢のどちらもが溜の縁にかからない位置に落下する。溜の上側は厚い膜に覆われていて、着落した瞬間は地盤のゆるい土に乗ったと同じであるが、踏んばろうとすると四ッ肢ともヌカルミに吸いとられたようになり、やがて藻掻けば藻掻くほど、ファブリスの体は自身の重量で、四肢を前後にのばした姿勢のまま、肥溜の底の方へユックリと沈んで行く……。こうした場景が、志賀氏の実際の文章ではもっと雄渾な筆致で活写されているのだが、別の意味で私をさらに驚かせたのは、志賀氏がそのような場面を想像で描きながら、ファブリスの死に少しも同情せず、悪い奴がいなくなったことをシンから愉快そうに語って、この話をしめくくっている点だ。

無論、犬のことであり、どこにも憐れみをかけて語る必要のない相手だということは、わかりきった話だが、相手が犬だからといって、その犬が憎ければ徹底的に憎み、それについて少しも手加減も容赦もしないという苛烈な態度に、私はやは

2025 kyosai-guild.jp

り何か心のタジロぐようなものを覚えずにはいられない。

犬が肥溜に落ちる話をかいたのは志賀氏だけではない。太宰治の「畜犬談」、梅崎春生の「Sの背中」などにも、犬がオワイ溜に跳びこむことが出て来るが、いずれも志賀氏の場合とちがって、犬のあわれと滑稽とが主調になっており、そのオロカシさに犬を手放せなくなるといったペーソスが語られているのである。私も「朝の試写会」を読みながら、ファブリスが肥溜に墜落するあたりでは、思わずこの黒い脩若無人の犬に同情していた。これは一つには、われわれ都会に暮している者が田園をロマンチスムと考えるときに、肥溜というものが大きな障害になるからだろう。ベートーヴェンの「田園交響楽」は描写音楽の傑作と称せられているが、あれに肥溜が一つも描かれていないことを考えれば、④私の言わんとするところは理解していただけるだろう。あの時代のドイツでも化学肥料はそんなに普及も発達もしていなかったはずで、肥溜はベートーヴェンの散歩の道筋にも必ず存在していたと思われるのに、それを無視したのは何故か？　やはりベートーヴェンにとっても、あれは自然がわれわれの排泄物をもとに植物を育てているという原理的な理解を超えて、圧倒的に醜悪な、怖るべき存在だったからに違いない。

これは断言してもいいが、太宰氏や梅崎氏が、犬がオワイ溜に落ちる話を書いたのは、彼等の恐怖心を犬に託して語っているのであり、その潜在意識があの場面に一種の厳粛な滑稽味を漂わせるのである。「朝の試写会」でファブリスが不本意な死をとげる場面にも、それは勿論ある。私はファブリスの体躯が空中高く跳躍し、肥溜に落下するあたりから、次第に自分が犬の気持に傾き、乾いた肥料の表皮の上にイカダのように乗ったファブリスの顔が文章とは別箇に眼に浮ぶ。——おや、一体ここは何処なんだ？　そう思ううちにも、だぶだぶしたオワイの上のイカダは、カチカチ山の狸の泥舟となって、足もとからヒビ割れて崩れ、たちまち彼は体ごと溺れて行く。しばらくは犬掻き泳ぎで黄色い飛沫をハネ上げながら、何とか肯だけでも浮んでいることが出来るだろう。しかし、まだファブリスには起った事態が何であるか、理解できていない。夢中になって四肢を動かしているうちに、藻掻けば藻掻くほど体が沈むこの液体が、彼にも無気味になってくる。

（中略）

——どうなるんだろう、おれはこれから……。まさかこのまま死ぬんじゃ、あるまいな？

そう思う一方で、彼の眼にふと自分の跳び掛ろうとした白い牝犬のからだがハッキリと浮ぶ。尻尾を振りながら、ひょいとこちらを振り向いた目つきや、白い毛に覆われた腰つきのやさしさ、など……。ああ、たしかに彼女はオレに気があったんだ。もうちょっとのところでオレはあいつを……。そんなウットリした想いがファブリスの頭を横切っている間、彼の手脚は動きをとめていた。そして、もう一度、白い牝犬のチラリと流し目にこちらを見た視線を憶い出し、ふとその眼の中に妙に意地悪い微笑が冷たく光ったのが突然不吉な予感でよみがえって来た。

（中略）

私は、⑤こんなふうに自分勝手の想像を交えて、あの場面を読みながら、志賀さんもいくら隣の犬の横暴さに腹が立ったといっても、何もこんなにムゴい死に方をさせなくたっていいじゃないか、いや死に方はどうでも、そのあとに何か一と言、ファブリスのために弁じる言葉があったってよさそうなものだろうに、などとひとしきり思い悩んでみたりした。しかし、そういう空想自体、志賀氏の文章から浮んだもので、もともと私のものではない。志賀氏は一匹の性悪な犬のことを述べて、その死に際のことまでを淡々と語ったまでで、読者がファブリスの死を憐れもうが、くたばって好い気味だと溜飲を下げようが、そんなことは別に氏には関心がない……。ここで志賀氏の関心はただ犬そのものに向けられているだけだ。

太宰治も梅崎春生も、犬が肥溜に落ちてオワイまみれになることは書いたが、それはユーモアがあって面白いのだが、その描写はただ志賀氏ほどには明瞭でも適確でもないのである。志賀氏は隣家の犬が、あんなふうになって死ぬのを想像したということが述べられてあるだけで、また実際にあんな場面にぶつかって自分であの通りを目撃したら、とても黙って見ていられるはずはないし、要するに空想の地獄絵図に過ぎないのに、梅崎氏か太宰氏が散歩の途中で自分の家の犬が眼の前で肥溜に跳びこむ場面に較べて、跳びつく犬の姿勢、落ちて行く恰好や、沈んで行く有様など、跳躍の力動感一つだけをとっ

2025 kyosai-guild.jp

ても、志賀氏のイメージは段違いに明確である。太宰、梅崎、両氏に限らず、こういう場面で志賀氏ほどハッキリと生きものの姿態を書ける作家は、おそらく誰もいないと言っていいだろう。

（安岡章太郎『犬をえらばば』より）

＊1　雄渾……文章などが張りがあり、見る人に勢いを感じさせる様子。
＊2　ペーソス……哀愁。
＊3　ロマンチスム……現実を離れて夢や空想にひたる傾向。

問1　傍線部①「われわれの内心の〝犬〟的な要素」について具体的に述べられた箇所を〔　〕部から三十五字で抜き出し、初めと終わりの三字を答えよ。

問2　傍線部②「キトクな心掛」とあるが、ここでの「キトク」とはどのような意味か。最も適当なものをA～Dから選び、記号で答えよ。

A　愚かでばかばかしいさま
B　非常に珍しく奇妙なさま
C　優れて他と違って感心なさま
D　気の毒で見ていられないさま

問3　傍線部③「一朝の試写会」という短篇」において、志賀が「ファブリス」が肥溜に落ちて亡くなる場面を描いたことを、筆者はどのように思っているか。最も適当なものをA～Dから選び、記号で答えよ。

A　ファブリスの死に様を、私情を挟むことなく克明に描写しようとした志賀の作家としての使命感に共感しつつも、同じ作家として気後れしている。
B　たとえ相手が犬であろうと手加減も容赦もせず、悪を徹底的に憎み、描写を通して成敗しようとした志賀の正義感の強さに感服している。
C　憎き相手が壮絶な死に方をする場面を想像し、それを描写することをまるで愉しんでいるかのような志賀の本性を知り、困惑している。
D　まるで実際に見たかのようにその場面を描くことのできる志賀の描写力の高さを評価しつつも、ファブリスに対する苛烈な態度に圧倒されている。

問4　傍線部④「私の言わんとするところ」とあるが、筆者は何を言おうとしているか。最も適当なものをA～Dから選び、記号で答えよ。

A　ベートーヴェンの「田園交響楽」には肥溜が表現されておらず、描写音楽の傑作とは言えないということ。
B　都会に暮らす者にとって肥溜は、理想的な田舎のイメージとは相反する、醜悪な忌るべき存在であるということ。
C　田園から醜悪な恐るべき肥溜を排除し、ファブリスを見舞ったような悲劇が起きないようにすべきだということ。
D　肥溜は田舎の至る所に存在するが、都会に暮らす者が考える以上に、田舎の生活の障害になっているということ。

問5　傍線部⑤「こんなふうに自分勝手の想像を交えて」とあるが、筆者がこのように想像したのは、志賀が描いた「犬が肥溜に落ちる場面」から、何を感じ取ったからか。本文中より六字で抜き出して答えよ。

問6　二重傍線部「志賀氏の場合とちがって」とあるが、筆者は「犬が肥溜に落ちる場面」の太宰と梅崎が描いているものと、志賀が描いているものの違いをどのように述べているか。文章全体を踏まえて、八十字以上百字以内で説明せよ。

2025 kyosai-guild.jp

第四問題　次の文章を読み、後の問に答えよ。（設問の都合上、一部本文に修正を加えている。）

六条修理大夫顕季卿、東のかたに知行のところありけり。館の三郎義光、妨げ争ひけり。大夫の理ありければ、院に申し給ふ。「左右なく、①かれが妨げをとどめらるべし」と思はれけるに、とみにこときれざりければ、心もとなく思はれけり。

院に参り給へりけるに、閑かなりける時、近く召し寄せて、「汝が訴へ申す東国の庄の事、今まで、こときらねば、くちをしとや思ふ」と仰せられければ、かしこまり給へりけるに、たびたび聞はせ給へば、わが理ある由をほのめかし申されけるを、聞こしめして、「申すところは、いはれたれども、わが思ふは、かれを去りて、かれに取らせよかし」と仰せられければ、②思はずにあやしと思ひて、ⓐとばかりものも申さで候ひければ、「顕季が身には、かしこなしとても、（　ア　）まじ。国もあり、官もあり。いはば、この所ⓑいくばくならず。義光はかれに命をかけたる由、申す。かれがいとほしきにあらず。顕季がいとほしきなり。義光はえびすのやうなるもの、心もなきものなり。やすからず思はむままに、夜、夜中にもあれ、大路通るにてもあれ、いかなるわざはひをせむと、ⓒ思ひ立ちなば、おのれがため、ゆゆしき大事にはあらずや。身のともかくもならむも、さることにて、心憂きためしにいはるべきなり。（　イ　）にまかせていはむにも、思ふ、憎むのけぢめを分けて定めむにも、かたがた沙汰に及ばむほどのことなれども、これを思ふに、今までこときらぬなり」と、仰せことありければ、顕季、③かしこまり悦びて、涙を落して出でにけり。

家に行き着くやおそき、義光を「聞ゆべきことあり」とて、呼び寄せければ、「人まどはさむとし給ふ殿の、なにごとに呼び給ふ」といひながら、参りたりければ、出で会ひて、「かの庄のこと申さむとて、案内いはせ侍りつるなり。このこと、理のいたるところは、申し侍りしかども、④よくよく思ひ給ふれば、わがためは、これなくとても、ことかくべきことなし。そこには、これを頼むとあれば、まこと不便なりと申さむとて、聞えつるなり」とて、去文を書きてとらせられければ、義光かしこまりて、侍に立ち寄りて、⑤豈紙に二字書きて、奉りて出でにけり。

そののち、つきづきしく昼など参り仕ふることはなかりけれども、よろづのありきには、なにと聞えけむ、思ひよらず、人も知らぬ時も、鎧着たるものの、五六人なきたびはなかりけり。「たれを」と問はすれば、「館刑部殿の随兵に侍り」といひて、いづくにも身を離れざりけり。

（『十訓抄』より）

（注）

＊1　六条修理大夫顕季卿……藤原顕季。
＊2　知行のところ……領地。
＊3　館の三郎義光……源義光。平安後期の武将。
＊4　院……白河上皇。
＊5　こときれざりければ……「決着がつかなかったので」の意。
＊6　庄……荘園。
＊7　かれを去りて……「あの土地は手放して」の意。
＊8　えびす……荒くれた武士。
＊9　心憂きためしにいはるべきなり……「無念な話として噂になるだろう。」の意。
＊10　去文……土地などの所有権を譲る証文。
＊11　侍……侍所。顕季の家に置かれた、侍臣や従者の詰所。
＊12　二字……実名。本名。服属の際、実名を記した名簿を提出するのが習わしであった。
＊13　館刑部殿……源義光のこと。

2025 kyosai-guild.jp

問1 二重傍線部a～dの語句と表現に関する説明として最も適当なものをA～Dから選び、記号で答えよ。

A　a「くちをしとや思ふ」は、「や」が反語の助詞であり、院の無念を強調した表現になっている。

B　b「とばかりものも申さで候ひければ」は、「で」が打消の接続助詞であり、顕季が何も申し上げずにいたことをあらわす表現になっている。

C　c「いくばくならず」は、数量や程度がたいしたものでないことを表し、顕季が自らの立場を謙遜する表現になっている。

D　d「思ひ立ちなば」は、「な」が強意の助動詞であり、義光の驚きを強調した表現になっている。

問2 傍線部①「かれが妨げをとどめらるべし」を「かれ」が指す対象を明らかにして現代語訳せよ。

問3 傍線部②「思はずにあやしと思ひて」、傍線部③「かしこまり悦びて」とあるが、顕季の心情はどのように変化したか。変化の理由を明らかにして八十字以内で説明せよ。

問4 傍線部④「よくよく思ひ給ふれば」について、次の(1)、(2)に答えよ。

(1) 主語をA～Fから選び、記号で答えよ。

A　顕季　B　義光　C　院　D　鎧着たるものの、五六人　E　作者　F　読者

(2) 「給ふれ」の敬語の種類として最も適当なものをA～Cから選び、記号で答えよ。

A　尊敬　B　謙譲　C　丁寧

問5 次の(1)、(2)の問に答えよ。

(1) 空欄（ア）、（イ）にあてはまる語句を、本文中からそれぞれ抜き出して答えよ。ただし（ア）は平仮名四字、（イ）は漢字一字で答えること。

(2) 傍線部⑤「置紙に二字書きて、奉りて出でにけり」について、この行動は義光の、どのような意志をあらわすものか。三十字以内で説明せよ。

2025 kyosai-guild.jp

・中学校受験者は、〔Ⅰ　中学校受験者問題〕を解答すること。
・高等学校受験者は、〔Ⅱ　高等学校受験者問題〕を解答すること。
・特別支援学校受験者は、〔Ⅰ　中学校受験者問題〕または〔Ⅱ　高等学校受験者問題〕のいずれかを選択して解答すること。選択した区分について、解答用紙所定の欄に○で囲んで示すこと。

〔Ⅰ　中学校受験者問題〕

第五問題　次はある生徒が書いた電子メールと手紙である。これを読み、後の問に答えよ。

宛先　customer@△△△△△.co.jp
CC
BCC
件名　職場体験をとても楽しみにしています。朝８時30分からでもよろしいでしょうか。

スーパー高橋店長
高橋一郎様

中央中学校２年１組の伊藤光と申します。来週、職場体験で３日間お世話になります。いつもおいしい野菜を販売しているスーパー高橋様では、どんなお仕事の工夫をさ①れているのか、職場体験を通して学べることをとても楽しみにしています。

そこで、一つお願いがあります。スーパー高橋様に②お伺いさせていただく時間を、開店時刻の10時から朝８時30分に変更できますでしょうか。せっかくの機会ですので、開店前の準備から体験してみたいと考えています。

急なお願いで申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いします。

伊藤光
2103@□□.chuoujhs.jp

2025 kyosai-guild.jp

拝啓

秋の風がさわやか③に吹いてくる時期になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

職場体験でお世話になりました、中央中学校二年一組の伊藤光です。その節はとてもあたたかく④迎えてくださり、ありがとうございました。

さて、中央中学校では、来る十月三十日⑧に、学習発表会を行います。私達二年生はタブレットを使ったプレゼンテーションで、職場体験の報告をします。ご都合がつきましたら皆様でお越しください。

スーパー高橋の皆様にまたお目にかかれますことを、とても楽しみにしています。

季節柄、長雨が続きますので、風邪などお召しになりませんようにお過ごしください。

敬具

記

●日時　令和五年十月三十日（月）午後二時より

●場所　中央中学校　体育館

以上

令和五年十月一日

中央中学校二年一組

伊藤光

スーパー高橋の皆様

問1　傍線部①「れ」と同じ意味・用法で使われているものを、A～Eの――部から選び、記号で答えよ。

A　いたずらをして叱られる。
B　出中先生はもう帰られる。
C　故郷が思い出される。
D　この商品はよく売れる。
E　雨がふらなくて木が枯れる。

問2　傍線部②「お伺いさせていただく」を適切な敬語表現に書き換えて答えよ。

問3　傍線部③「に」と傍線部⑥「に」の品詞の違いについて具体的に説明せよ。

問4　傍線部④「迎」の「丿」は何画目に書くか、算用数字で答えよ。

問5　傍線部⑤「きれいなお店の前にある花だん」は誤解をまねきやすい表現である。生徒にどのような点に気をつけて書き直すよう指導するか、説明せよ。

問6　電子メールの件名が適切ではない。生徒にどのように指導するか、説明せよ。

問7　「光」の字を行書で書くとき、楷書の字との違いを一つ取り上げて行書の特徴を説明せよ。

2025 kyosai-guild.jp

国語

14／15枚中

〔Ⅱ　高等学校受験者問題〕

第五問題　次の文章を読み、後の問に答えよ。（出題の都合上、旧字体を改め、一部訓点を省略している。）

或貪生而反死、或軽死而得生。或徐行而反疾。①何以知其然也。②*1魯人有為父報讐於*2斉者。刳其腹而見其心、坐而正冠、起而更衣、徐行而出門、上車而歩馬、顔色不変。*3其御欲駆、撫而止之曰、「今日為父報讐、以*4出死、非為生也。③今事已成矣。又何去之」。追者曰、「此有*5節行之人、不可殺也」。④解囲而去之。使被衣不暇帯、冠不及正、*6蒲伏而走、上車而馳、必不能自免於千歩之中矣。今坐而正冠、起而更衣、徐行而出門、上車而歩馬、顔色不変、此衆人所以為死也、而乃反以得活。此所謂徐行反疾、而⑤馳遅於歩也。夫走者、人之所以為疾也。歩者、人之所以為遅也。今反乃以人之所為遅者、反為疾、⑥明於分也。

（「淮南子」より）

（注）
*1　魯……国名。
*2　斉……国名。
*3　其御欲駆……御者が追手につかまるのを恐れて馬を走らせようとすると。
*4　出死……死を覚悟すること。
*5　節行……自分が正しいと信じる考えや姿勢を固く守り通すこと。節操。
*6　蒲伏……力をつくして急ぐさま。

2025 kyosai-guild.jp

問1 二重傍線部a「所以」の読みを現代仮名遣いで答えよ。

問2 傍線部①の解釈として最も適当なものをA～Eから選び、記号で答えよ。

A　そんなことを知ることができようか、いやできない。
B　何によってそうであることがわかるか。
C　何によって知ったらそうなるのか。
D　どのような知識が必要なのか。
E　どうしてそのままでいようとするのか。

問3 傍線部②が「魯人で父のための復讐を肯に果たした者がいた」という意味になるように、返り点を施せ。

問4 傍線部③とはどういうことか、十五字以内で説明せよ。

問5 傍線部④について、「追者」がこの行動を取ったのはなぜか。五十字以上六十字以内で説明せよ。

問6 傍線部⑤について、送り仮名を補って書き下し文に直せ。

問7 傍線部⑥が表す内容として最も適当なものをA～Eから選び、記号で答えよ。

A　自分と他人との区別をはっきりと知っているからである。
B　身分秩序のことに通暁しているからである。
C　自身の職分をわきまえているからである。
D　遅速の本質的な区別を知り抜いているからである。
E　身分相応な振る舞いを理解しているからである。

2025 kyosai-guild.jp

令和六年度　解答例

国語

1／5枚中

第一問題

問1 (1)	問1 (3)	問2 (1)	問2 (2)
ア	タ（部）	C	
ようやく	1点		
イ		E	
ぞうけい		1点×2	
(2)			
ア			
抱擁			
イ			
傾倒			
1点×4			

第二問題

問1 (1)	問1 (2)	問2 (1)	問2 (2)	問2 (3)
消費にかかわる自由の配分	A	税収や年金給付等に 10	正規雇用と非正規雇用、職業や職種、都市と	生活費も高いので、都会の方が豊かとは言い 20
4点	(3) E	る所得分配の調整（十八字） 20	地方の所得などの格差は深刻だと考えている状況で	切れない（二十四字） 30
	(4) B	4点	7点	
	3点×3			

問2 (2)
いう考えには説得力が乏しいから。（九十六字） 100
4点

問2 (2)
、ジニ係数だけを見て全体としては平等だと 80

問2 (2)
民の88%が格差は深刻だと考えていて、国民の88%が格差は深刻だと考えている状況で

問2 (2)
地方の所得などの格差が依然として残り、国

問2 (2)
正規雇用と非正規雇用、職業や職種、都市と

問2 (2)
税収や年金給付等に 10

問2 (3)
生活費も高いので、都会の方が豊かとは言い 20

問2 (3)
切れない（二十四字） 30

2025 kyosai-guild.jp

第三問題

問1	問2	問3	問4	問5	問6				
自				厳	太	滑	稽	心	ら	淡
分				粛	宰	稽	を	雄	々	
自				な	や	を	語	渾	と	
〳				滑	梅	主	っ	な	明	
て				稽	崎	調	て	筆	瞭	
い				味	は	に	い	致	で	
る					、	描	る	で	適	
					目	き	が	、	確	
					の	、	、	生	に	
					前	自	志	き	描	
					で	分	賀	も	写	
					起	た	は	の	し	
					き	ち	、	の	て	
					た	の	想	死	い	
					犬	肥	像	に	る	
					の	溜	で	際	。	
					あ	へ	あ	の	（九十六字）	
					わ	の	り	姿		
					れ	恐	な	態		
					と	怖	が	を	100	80
4点	3点	4点	3点	3点	8点					

2025 kyosai-guild.jp

第四問題

問1	問2	問3				問4		問5		
						(1)	(2)	(1)	(2)	
B	義光の妨害を差し止めなさるだろう。	は	じ	め	を	A	B	ア	と	顕
		の	言	葉	は			こ	い	季
2点		を	危	惧	の			と	う	の
		東	不	審	気	2点	2点	か	意	恩
		国	審	に	持			く	志	に
		の	に	も	ち			イ	。	報
		荘	思	の	に			理	（二十五字）	い
		園	っ	で	感					る
		は	た	あ	激					た
		義	が	る	し			2点×2		め
		光	、	こ	た					家
		に	実	と	。					臣
		与	は	を	（七十三字）					と
		え	義	知						し
		よ	光	り						て
		と	か	、						仕
		い	ら	院						え
		う	の	の						よ
		院	報	思						う
	3点	6点						3点		

2025 kyosai-guild.jp

第五問題（Ⅰ　中学校、Ⅱ　高等学校のどちらかを選んで答えること。）

選んだ区分を○で囲むこと。　Ⅰ　中学校　　Ⅱ　高等学校

Ⅰ　中学校							
問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
B 2点	伺う 2点	③の「に」は形容動詞の活用語尾だが、⑥の「に」は格助詞である。 3点	3　画目 2点	「きれいな」が「お店」にかかるのか、「花だん」にかかるのかわかりにくいので、読点をつけたり語順を変えたりして修飾・被修飾の関係を明確にするように指導する。 3点	件名が長く用件がわかりにくいので、用件がひと目でわかる簡潔な件名にするよう指導する。 3点	楷書の四、五画目が、行書では㇀と変化するように、点画が連続したり点画の形や方向が変化したりする特徴がある。 3点

2025 kyosai-guild.jp

国語

5／5枚中

第五問題

Ⅱ　高等学校

問1　ゆえん　2点

問2　B　2点

問3　魯人有下為レ父報二讐於斉一者上　2点

問4　父の復讐を果たしたこと。　15　3点

問5　魯人が、復讐を果たした後も死への覚悟を固く守り通し、その場から逃げ出そうとしなかったことに感銘を受けたから。（五十四字）　50　60　5点

問6　馳するは歩むより遅き（もの）なり　2点

問7　D　2点

2025 kyosai-guild.jp